

基本構想 3 都市空間の将来構造

1 都市づくりの基本的考え方

将来の都市像「活力と緑あふれる太陽都市…みやざき…」の実現に向けた本市の都市づくりは、南九州の中心的役割が期待される中核都市として、特に空洞化が進んだ中心市街地の活性化や、各地域における拠点性の向上を図るとともに、市街地周辺の自然的環境の維持・保全を図り、環境に与える負荷を抑えながら、豊かな自然的環境や歴史、伝統、文化等の伝承と併せて、快適で利便性の高い都市環境を次世代に継承することに重点を置くものとします。

その背景として、少子高齢社会の到来、人口減少に伴う、社会基盤（インフラ）への投資余力の低下が予想されており、そのため、居住地、商業地、業務地、公共公益施設等が一定のエリア内にコンパクトに集約し、「住み」「働き」「訪れる」が相互に、容易に交流できる都市構造を実現することが、今後のまちづくりには求められています。

本市において、このような都市構造を実現するために、既存ストック(現にある、都市を支えるさまざまな蓄積)を有効に活用しつつ、原則として郊外においては都市構造に大きな影響を与える新たな都市機能の立地を抑制し、多様な都市機能を都心部及び拠点となるべき各地域の中心部に集積させながら、都心部と各地域の都市拠点を連携する都市軸の強化により、一体として都市機能がコンパクトに集約した効果が発揮されるコンパクトシティを目指すものとします。

また、災害に強い安全・安心のまちづくりを推進するため、津波防災地域づくりに関する法律に基づく各種施策の検討や都市計画マスタープランの見直しを行います。

2 将来構造の基本的構成

①都市拠点

中核拠点

橘通、宮崎駅周辺、中村等を中心に、高次商業・業務をはじめ、居住、文化、情報など多様な都市機能の集積や都市空間の有効・高度利用等、及び良好な都市景観形成に努めます。また、併せて「橘通りを中心とした公園化」を目指し、中心市街地の拠点性を高めます。

地域拠点

佐土原駅周辺、田野駅周辺、高岡総合支所周辺、清武駅周辺を中心に、中核拠点を補完する拠点として、各地域住民の居住、日常生活を支える商業・業務、身近な公共公益、文化機能等の集積を図り、各地域の拠点性を高めるとともに、地域の防災拠点としての機能充実に努めます。

防災拠点

本市のみならず、県下全体の防災拠点として機能の充実に努めます。

②都市軸

都市拠点等を結ぶネットワークの形成を図るため、主に道路系交通網をベースとした都市軸を形成します。

国道 10 号、国道 220 号、国道 269 号等の南北及び東西の都市軸、並びに九州縦貫自動車道宮崎線、東九州自動車道、及び ITS 葉有料道路等の広域的に主要都市間を結ぶ都市軸、さらにはそれらを補完して市内の各地域間の連携・交流を促進する都市軸の形成を目指します。

③ゾーン

都市的土地利用ゾーン

外環状線及び ITS 葉有料道路で囲まれる区域を都市的空間とし、既存の市街化区域を中心として、都市機能(※)の集約を図るゾーンの形成を目指します。

自然的土地利用ゾーン

都市的土地利用ゾーンの外側を自然的空間とし、自然的環境（農地・森林・緑地等）の保全を図るゾーンの形成を目指します。

※都市機能とは、居住、商業業務、工業、交通、行政、教育、福祉、医療など、教育に必要とされる働きやサービスのことです。

